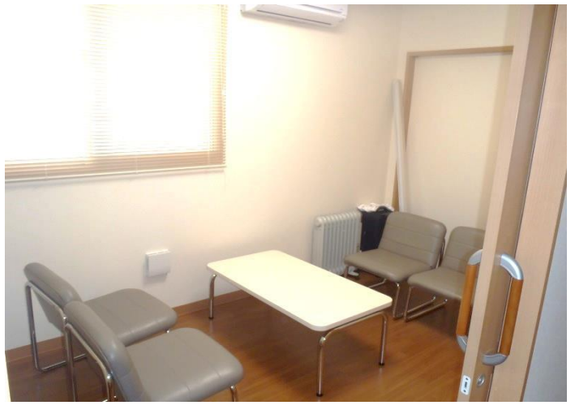
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相双COCOROニュースなごみ

第８号　H25 年 10 月 25 日　隔月発行
発行元　相馬広域こころのケアセンターなごみ　編集部
ホームページ　http://nagomi.soso-cocoro.jp
Facebook ページ　http://on.fb.me/SQ56Ju

新事務所が完成しました！



平成 25 年８月、メンタルクリニックなごみの隣に新しい事務所が完成しました！ヤマト福祉財団様からいただいた寄付を使わせていただき、明るく、広い事務所となりました。

今までは、部屋が２つに分かれていたり、スタッフの机が十分に置けなかったり…など不便な点がありましたが、そんな点も解消されて快適です。また、応接室も設け、来所相談やカンファレンスなどを行えるスペースもできました。

震災から２年と半年が経ちました。福島では、放射能をはじめ様々な問題が今もなお取り巻いています。これからも、地域の皆様にとって身近な存在となれるよう精一杯頑張っていきたいと思います。

お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください！

9.11 家族会交流会 in 新地町がんご屋仮設住宅

８月２日、新地町のがんご屋仮設住宅にアメリカ同時多発テロで被害を受けた方の遺族である 9.11 家族会が来訪し、対話集会を行いました。

今回は子ども向けの夏のサンタクロースイベントも行われ、プレゼントを配り、家族の方と仮設住宅で暮らす子どもたちとの交流もありました。

後半はグループを４つにわけ、一緒に食事をしながらそれぞれの思いを語る場が設けられ、盛り上がりを見せていました。昨年 10 月以来２回目ということで、住民の方も１回目よりリラックスした表情で楽しんでいる様子が見受けられました。

がんご屋仮設住宅の方は、原発被害で元々の居住地域から強制的に退去せざるを得なくなってしまった方が多く、今後もいつ戻れるのか、この先の生活がどうなるのかという不安を抱えています。

9.11 家族会の方々は、アメリカ同時多発テロの遺族の方たちで壮絶な体験をしております。現在でも現場付近にいた方たちの中には有害な粉塵により、健康被害を受けた方が多くいます。

種類の違う災害ですが、お互いに今後も長引くであろう不安やストレス、健康被害、その時の体験を共有することで、世界にも自分たちの思いが共感できる人がいるということを確認できたこのような会はとっても重要な機会だと思います。

対話集会終了後も住民の方から「楽しかった、良かった」という声も聞かれました。私たちなごみもこのような集会の開催をお手伝いでき、参加させて頂くことによって大変勉強になりました。

（文責　須田）

おねがい

登録されている情報の変更がありましたら、ご連絡お願いします！

お引越し等でご住所・お電話番号・メールアドレスの変更がありました場合は、当センターまでご連絡お願いします！

福祉事業所との事例検討会

（写真　８月の事例検討会の様子）

毎月 1 回、相双地区の福祉事業所や病院のスタッフと事例検討会を行っています。

昨年の夏から始まり、毎月支援に来てくださる代々木病院の中澤正夫先生の協力のもと、徐々に軌道に乗ってきました。

「じゃあ、この人のいいところを探してみましょうか」

これは、アイディアに困ったときのいつもの一言です。事例検討をしていると、問題となっていることやスタッフ側が困っていることに意識が向いてしまうことがありますが、そんな時、この一言が魔法のように参加者の思考を変化させます。問題となっていることだけでなく、本人が望んでいることは何か、本人が得意とすることは何かに注目することで、今までとは違ったアプローチが頭に浮かんでくる、そうなると話し合いが盛り上がります。たくさんのアイディアが生み出され、各事業所の事例提供者の明日からの支援が少し変えられる、そんな変化が見られています。

今年度から毎月各事業所さんに持ち回りで事例と場所を提供してもらい、毎月の開催につながっています。

精神障がい者に関わる地域の機関が協力し合える地域になることを目指し、毎月の開催を続けていきたいと思っています。

（文責　河村）

平成 25 年度　相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会　会員大募集！

本会の趣旨に賛同し入会していただく正会員・賛助会員を募集致します。

1．正 会 員　　年会費　一口 10,000 円
2．賛助会員　年会費　　一口 3,000 円

申し込み方法

① 正会員または賛助会員・氏名・住所・所属先・職業・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記住所に申込書を郵送または FAX してください。

お振込み先　東邦銀行　相馬支店　普通預金
口座番号：1044879
口座名義：特定非営利活動法人
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
理事長　大川貴子

郵便振込の場合
口座番号：02260-0-126825
口座名義：特非　相双に新しい精神科医療保健福祉をつくる会
(東邦銀行口座と名義が異なりますので、ご注意下さい)

② 以下のホームページアドレスから申し込むこともできます。
http://soso-cocoro.jp/（Paypal 決済も可能です）

※会員になってくださった方には、定期的に会報や現地の情報を送らせていただきます。是非ご検討下さい。

お問い合わせ

〒976-0016
福島県相馬市沖ノ内 1 丁目 2-8
電話　0244-26-9753
FAX　0244-26-9739
担当　佐藤里美・佐藤菜摘
アドレス　nagomi@soso-cocoro.jp

平成 25 年度　第 1 回
精神障がい者アウトリーチ推進事業（震災対応型）　事業評価委員会
ふくしま心のケアセンター相馬方部　連絡調整会議

当法人は二つの事業を委託されております。一つは、精神障がい者アウトリーチ推進事業（震災対応型）が県から委託され、もう一つは、ふくしま心のケアセンター相馬方部の事業は福島県精神保健福祉協会から再委託されており、この二つの事業は、国の復興財源で賄われています。今回、この二事業の委員会、連絡調整会議が開かれました。

こころのケアに係る支援者が多数参加していただきました。精神障がい者アウトリーチ推進事業（震災対応型）事業評価委員会では、当法人の活動報告が行われた後、困難事例について事例検討がおこなわれました。

アウトリーチ事業の対象者は対象者や同居している家族が必ずしも支援に結びつくことを望んでいないケースや、緊急性がある身体疾患を持つ場合アプローチは困難となります。このようなケースへどのように介入していくか、もし入院した場合その後の介入をどのようにして行っていくかが話し合われました。多職種、他機関での様々なアイディアが飛び交い有意義な委員会となりました。

ふくしま心のケアセンター相馬方部、連絡調整会議では、個々に思う自殺対策は何か、アイディアを出し合いました。住民のゲートキーパーを増やすことや共通文化のイベントなど行い支援につながりにくい住民へ参加してもらうなど所属機関の立場を越えた意見がでました。

被災地では、他にアルコール問題や復興の格差、若年層が避難先から戻ってこないことによる高齢化、家族の変化などの問題があります。支援者が力を合わせ、知恵を出しあうことによって、よい支援体制が生まれることを願います。

（文責　米倉）

（写真左　アウトリーチ評価委員会の様子）
（写真右　グループワークの様子）

編集後記

お知らせしましたように、八月になごみの新事務所が完成しました。明るく、そして広い事務所になり、スタッフの意欲も今まで以上に上がっているような気がします。

今回は、アメリカの九・一一家族会の皆さんとの交流や、地域の福祉事業所との事例検討会、アウトリーチ推進事業評価委員会、心のケアセンター方部調整会議など、様々な交流・連携の様子をお伝えしました。

この会報を作成しながら、改めてたくさんの方々と一緒に活動させていただいていると実感しました。この場を借りて感謝申し上げます。

編集員　菜摘